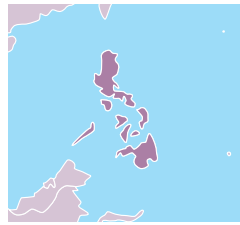




メトロマニラ立体交差 建設事業(4)

アジア フィリピン



立体交差建設によりマニラの交通渋滞を緩和し、地域経済の発展に貢献

【外部評価者】
三州技術コンサルタント株式会社 川畑 安弘/坂入 ゆり子

レーティング

有効性・インパクト	a	総合評価 B
妥当性	a	
効率性	b	
持続性	b	

本事業の目的

メトロマニラにおいて最も交通量の多い環状道路であるエドサ通りおよびC-5道路の各々の交差点につき、立体交差建設(3カ所)、詳細設計(4カ所)を行い、年々深刻化する交通渋滞の緩和、居住環境の改善をはかり、経済発展に寄与する。

借款契約概要

- 承諾額/実行額:
58億4900万円/50億9600万円
- 借款契約調印: 1998年9月
- 借款契約条件: 金利2.2%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイト[コンサルティングサービス部分は金利0.75%、返済40年(うち据置10年)、部分アンタイト]
- 貸付完了: 2005年1月
- 実施機関名: 公共事業道路省(DPWH)
- WEBページURL: <http://www.dpwh.gov.ph>
- ※ 本事後評価はフィリピン政府国家経済開発庁(NEDA)と合同で実施された。

本事業実施による効果(有効性・インパクト)

審査時におけるエドサ/ケソン通り立体交差の方向転換に要する時間は平均10分であったが、事後評価時の所要時間は全交差点で1分以下となっていた。また、交通量ピーク時および平均の走行速度も目標値を上回っており、実質的に渋滞が解消された(下表参照)。受益者調査によると、回答者の9割が、渋滞が解消され、アクセス・移動性に改善があったと感じている。さらに、同調査のなかで、本事業の効果として、運輸費用の削減(回答者の約6割)、地元の経済活動促進への貢献(約5割)、ビジネス・雇用の機会の拡大(約7割)のほか、渋滞の解消による大気、騒音等の環境改善なども報告された。本事業の実施により概ね計画どおりの効果発現が見られ、有効性は高い。

妥当性

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、開発ニーズ、開発政策と十分に合致しており、事業実施の妥当性は高い。審査時の中期国家開発計画では経済成長を基本的な目標としており、インフラ整備の促進も重点事項のひとつであった。また、事後評価時の同計画においても経済成長および就業機会の増加を重点政策とし、具体策として、メトロマニラの渋滞解消に貢献する道路・鉄道網整備事業を優先項目のひとつとしていた。

効率性

本事業は、事業費については計画内に納まったものの(計画比97%)、期間が計画を大幅に上回った(計画比279%)ため、効率性についての評価は中程度と判断される。遅延の要因としては、審査時の実施期間が過少に見積もられたこと、調達、設計/工事変更、用地取得に想定以上の時間を要したこと等が挙げられる。

今後の展望(持続性)

本事業の維持管理状況は、事後評価時点では構造的な問題は発生しておらず、舗装路面もおおむね良好な状態である。しかし、維持管理作業の予算が不十分であり、数年後に大規模な改修工事が必要となった際になどに懸念が残るため、本事業の持続性は中程度と評価される。

結論と教訓・提言

以上より、本事業の評価は高いといえる。教訓として、着工前の計画準備段階において1)工事の遅延やコストオーバーランを引き起こし得る設計変更を回避すべく、より詳細な技術調査・設計を行うこと、2)滞りなく用地取得が進められるよう、省、地方自治体、関連団体(官、民)の連携体制を確立すること、3)用地取得、入札、工事等に要する期間を十分見込んだスケジュールを策定することが挙げられる。

方向転換車両の走行速度(km/時)

交差点		目標値	実測値
エドサ/ケソン通り	平均速度	37	42
	ピーク時速度	17	20
C-5/ボニーセラノ	平均速度	20	50
	ピーク時速度	n/a	n/a
C-5/オルティガス通り	平均速度	31	31
	ピーク時速度	13	16

[出典]DPWH